

悠久

第 44 号



洛陽市凱旋小学一授業風景

本号の内容

- | | | |
|-----------------------|----------------|-------------|
| ① 岡山県日中教育交流協議会 会長就任挨拶 | 岡山県生涯学習センター | 所 長 岡 本 啓 |
| ② 上海市新和中学訪日団との交流 | 総社市立総社東中学校 | 校 長 秋 山 達 郎 |
| ③ 若 者 た ち は 内 向 き か | こくさいこどもフォーラム岡山 | 会 長 今 西 通 好 |
| ④ 協議会事務局からのお知らせ | | |

July
2014

岡山県日中教育交流協議会 会長就任挨拶



岡山県生涯学習センター 所長

岡 本 啓

本年五月の理事会・総会において、岡山県日中教育交流協議会の会長を仰せつかった。門野八洲雄前会長まで育てられてきた日中の教育交流事業を着実に受継ぎ、発展させることを使命と心得て、関係の皆様への御指導、御支援をいただきながら努力していきたい。

この会は、岡山と中国との教育交流及び青少年交流を促進し、様々な活動を通して青少年の育成を図り日中友好を促進させることを目的として、平成十一年に設立された。活動は十五年目を迎えている。設立当初は、現社会福祉法人旭川荘名誉理事長江草安彦氏や森崎岩之助初代会長が中心となり、多くの賛同者や団体に支えられ、事業の充実が図られた。黒瀬定生第二代会長の尽力により、平成十七年から高校生の交流が実現、以後、岡田浩明会長、門野八洲雄会長へと受け継がれ、高校生交流を中心に事業の継続発展が図られてきた。

世界経済がグローバル化し、相互の依存関係が一層深まり、中国、韓国などアジアの人材も多くが欧米へ飛び出し国際的な活動が広がる中で、海外に目を向ける日本の若者は減少しているようだ。

中国と日本は、地理的にも、歴史的にも、文化的にも、経済的にも離れられない関係にあり、好き嫌い、損得勘定を超えた宿命の様な深い関わりがあり、これからも続く。

そうした中で、独立した国家間では避けられない

利害対立の解決のためには、そこに暮らす一人一人の国民レベルの相互理解と交流がなければ、忍耐も知恵も生まれてこない。

国家間、政府間の問題とレベルは異なるが、他者との関係を調整する力、複雑な人間関係を調整する力は、相互に尊敬し理解し合おうとする態度に立脚するものだと思う。互いに「隣人のよさを知ること」がその第一歩になる。

先般、門野前会長と共に遼寧省大連第一中学校の石校長を訪ね、今年度の交流事業について打ち合わせを行った。「日中関係には、厳しい課題もあるが、喜んで岡山の高校生を受け入れる。中国の生徒も岡山を訪問できるような教育当局に申請している」とのことだった。厳しい状況にあるときこそ、このような交流をしっかりと進めていく必要がある。二年間、中国からの訪問は途切れているが、期待をもって見守り、受け入れ準備を進めたい。

また、大連外国語大学を訪問し、多くの学生が日本語を学んでいる姿に接した。廊下には「振り向くな 振り向くな 後ろには夢はない（寺山修二）」などの言葉が掲げてあった。

私たちは、グローバル化する時代を見据え、地道に日中教育交流に取り組む、これからの近隣諸国との友好親善と相互の繁栄の時代を築く有為な人材の育成に資するよう努めていきたい。

上海市新和中学訪日団との交流

総社市立総社東中学校

校長 秋山 達郎

このたび6月7日(土)～8日(日)の2日間にわたり、劉芳校長先生を団長とする総勢38名の団員(教職員4名、行政1名、生徒33名)の皆様をお迎えしました。

1日目は第51回岡山県中学校吹奏楽祭での演奏と、本校吹奏楽部の生徒との交流がメインでした。倉敷市民会館正面玄関付近で、新和中学一行の到着を吹奏楽部の生徒全員が、笑顔でお迎えしました。控え室に案内した後、昼食のお弁当を輪になって食べました。会話は英語を通して行いました。最初はぎこちなかった会話も、アニメなどの共通の話題になると、お互いに絵を描いてコミュニケーションをとるなど、随分盛り上がりつつありました。

それから新和中の生徒は練習室で約1時間、来日後初めての練習を行いました。本番までの間、県吹奏楽祭に出演している中学校の演奏を聴きました。おそらく、よい刺激になったことと思います。

そして、いよいよ出番です。曲目は「ヤルツァンボ川への思い」や「ジングルベル」など3曲。高音や低音を巧みに吹き分け、表情豊かな演奏でした。会場からは大きな拍手がおこりました。

2日目は国分寺を散策しました。新和中学は都会の学校で、学校の周りには、多くの緑や田園はないとのことでした。生徒の皆さんは熱心に国分寺の周りの緑や鳥や名花をカメラにおさめていました。



1日目昼食・交流風景

そののち、予定を変更してショッピングに案内しました。すでに京都、奈良で日本の神社仏閣を見学しており、まだお土産が十分買えていないことを聞いて、スーパーマーケットと1000円ショップが隣接する場所に案内し、約1時間のショッピングを楽しんでもらいました。これが意外と好評でした。引率の先生方は日本のおいしいお米を、生徒はお菓子やアクセサリー、小物などお土産を選んでいました。珍しいものでは、カレーのルーをたくさん買いこんでいた男子生徒もいました。それから総社東中学校に来ていただき、吹奏楽部の3年生とプレゼントの交換を行ったのち、音楽室で総社東中学校吹奏楽部の演奏の様子をDVDで見てもらいました。学校を後にする前には、体育館ではバドミントン部の女子生徒とバドミントンの練習を行い汗を流しました。昼食は県内でも有名な

総社市内の中華料理店でとりました。ここでも各テーブルで交流が始まり、食事でも忘れて話が盛り上がるテーブルもありました。最後に歌の交換をしました。まず新和中の校歌、中国国歌が斉唱されたのを受けて、総社東中の校歌、国歌を歌いました。最後には、キョク・カ・ユウ先生がすばらしい独唱を披露されました。北京オリンピックの時の歌だそうでした。そして、お別れの際、別れを惜しむようにお互いに抱擁する場面も見られました。

今回の交流で改めて国際理解教育の大切さが分かりました。国際理解教育を進めていくに当たって、特に重要と考えられることは、多様な異文化の生活・習慣・価値観などについて、「どちらが正しく、どちらが誤っている」ということではなく、「違い」を「違い」として認識していく態度や相互に共通している点を見つけていく態度、相互



2日目昼食会場で交流

★ 最初は緊張して話しかけられなくて珍対応をしてしまったりした。でも、紙に英語やアニメのキャラクターの絵を描いて話したり、歌を歌っていくうちに、とても仲良くなれた。日本のアニメにとっても詳しく、「ポケモンで一番何が好き？」と聞かれた時、あまりポケモンを知らない私は、「ピカチュウ！」とモノマネで答えることしかできなかった。言葉は通じなくてもジェスチャーや表情で相手の言いたいこと

最後に生徒の感想を2つ紹介します。

の歴史的伝統・多元的な価値観を尊重し合う態度などを育成していくことであると言われます。新和中との交流を通して、同じ吹奏楽を志す生徒同士、共通点もありましたが、異なる点もありました。そうした違いを理解し、認め合うことの大切さも実感しました。



新和中女子が日本の歌を披露



音楽室で吹奏楽部の顧問の先生から説明を受ける

★ 中国上海市にある新和中学の生徒と交流しました。最初に見たのは倉敷市民会館の正面入口でした。日本語が通じない人と本格的に交流するのは、初めてだったので、とても緊張しました。お昼の弁当の時には、新和中の男子4人、女子2人と東中の3年5人、1年2人で円になって話しながら、食べました。あんなに英語が難しいと思ったのは初めてだ！というぐらい頭が真っ白になったので、中国人の方が笑顔で接してくれた。新和中学の練習の休憩中、部屋の外でスピーカーから聞こえる他校の演奏を聴いていたら、新和中学の男子が

2人近づいてきて、上手すぎる英語でたずねられたので、適当に「トイレかな。」と思って、トイレに案内すると、「ドライバー？」とまたまた上手すぎる英語で言われましたが、「あっ、ドライバー？」とジャスチャーと日本語で聞くと、「そうそう、それだよ。」という顔をされたので、精密ドライバーを渡すと、「Thank you」と言ってくれました。いろいろあったし、恥ずかしかったし、笑われたけどうれしかったです。2日目、東中でプレゼント交換をしました。昼ご飯をみんなで食べました。同じテーブルになった子と写真撮影したり、英語で話したけど伝わらなかったり、中国語やゲームを教えてもらったり、日本語を教えたりしました。とっても楽しかったです。途中、歌合戦が始まりました。最後には、新和中の女子10人くらいが「君をのせて」を日本語で歌ってくれ



図書室でプレゼントの交換風景

ました。授業のあと、自分たちで自主的に練習してくれていたというのが、うれしかったです。昼食を終えて市役所でのお別れの時、一緒に食べた子に写真をいっぱいもらいました。ドライバーの男の子にもたくさんとられました。最後に仲良くなった2人の女子とハグしました。バスに向かって手を振っているとき、急に悲しくなってきました。最初は、日本人と中国人という大きな言葉の壁があって、接しにくい場面もあったけど、言葉が通じなくても、ジェスチャーや表情で気持ちが伝わるということを感じました。また新和中と交流したいです。



お別れ前に市役所玄関で記念撮影



こくさいこどもフォーラム岡山 (英文名:インターキッズ)

会長 今西 通好

ここ数年、大学、高校など教育現場はもとより、産業界、行政、マスメディア、また政治の場でも党派を超えて「グローバル人材育成」の大合唱の感があります。昨年実施されたグローバル教育に秀でた三十大学「グローバル30」の選抜に引き続いて今年の春には「スーパーグローバルハイスクール」として全国の国公私立高校から岡山県の岡山城東高校を含む56校が選ばれました。

私たちインターキッズは19年前から「世界で通用する国際感覚を子どもの時に」、つまり将来のグローバル人材育成につながる理念のもとに活動してきましたので、遅まきながら広く産官民にわたる国民的なコンセンサスが出来るのは歓迎すべきことと考えています。その背景には、わが国がこれから経済のみならず、教育、科学、技術、文化等の発展のためには多くの若者が、国際人として国の内外を問わずどこでも通用する柔軟な思考力、誰とでも交流できる社会性やコミュニケーションスキル、異文化への関心と受容能力など様々な資質能力を養っておかねばならないのに、若者が内向きになったのか、海外に留学する学生が減っていることなども指摘されています。

しかし、私はそれだけでいちがいに今の若者が内向きになったといえるのか、かねてから疑問に思っています。現につい三年前にも社団法人KIP知日派国際人育成プログラムが大学生一千人を対象に実施したアンケートによれば、「留学したいと思うか」という

問いに対して86%がイエスと答えています。さらに、「行きたいのに行かない理由は」①費用の問題38% ②卒業・就職時期への悪影響32%などの回答が出ています。決して内向きというわけではなく、家計とか国際化されていない大学、高校の制度や固定的な企業の雇用慣行など若者たちがそうならざるを得ない環境要因があるのではないかと。さらには、これまで留学経験のそのものを必ずしも評価しなかった産業界一般の風土にも問題があるでしょう。文科省のここ数年の予算配分でも「外国人留学生の受け入れ」300億円台に対して「日本人学生の海外留学推進」は30億円台とほぼ10分の1に過ぎず、今なお文科省の改革意図は伝わってきません。これを10倍にしても奨学金制度を拡大して、本来外向きの若者を支援してほしいものです。これらの諸々の課題にメスを入れなければ「内向き」の解消は困難だと思うのです。

私たちインターキッズの事業は1995年創設後8年ばかりは主に小学生を主役に岡山在住の外国人小学生と触れ合う機会を設け、互いに異文化を理解し学び合う体験を通して国際感覚を身につける学習を柱とするボランティア活動でした。その後、総合学習で採用された国際理解教育が小学校に広く普及し始めたことで私たちの役割はおおむね終えることになりました。そこで、2004年からは高校生を対象に「グローバル社会で活躍できる、あるいは向き合える人材」すなわ

ちグローバル人材を育成するための「インターキッズ国際塾」を開講することになりました。昨年度までの10期で延べ200人を超える修了生を送り出して今ではインターキッズの主要事業となっています。毎期の入塾生にはまれに留学経験者やいわゆる帰国子女がいる他は、県内のごく普通の高校生と思われるのですが、毎期おおむね十ヶ月十一回の講座の受講が進むにつれて多くの塾生に目覚ましい成長ぶりが見られます。回を重ねるにつれて質問の機会が増えたり、しっかりした応答ができたり、毎回の講義後に課せられるレポートにも初めて感動したり考えたことがいきいきと書き記されているのです。普段通っている高校やそれまでの中学校での検定教科書通りの授業ではおよそ学べない、例えば私たちの故郷である古代吉備の歴史と文化、日本の農業と食糧自給率、日米欧比較文化、ESD持続可能な社会、地元企業の海外展開、中近東特派員報告などな





ど、それぞれの専門家や海外での活動体験者による講義を通して経験する日本や世界の再発見。また知るほどに強まる世界や異文化への関心や敬意。世界の民族や自然、文化や価値観の多様性に気付いたり、さらには人類の長い歴史や未来の生き方にまで思考回路が及んでいます。国際塾の講義が普通の高校生のおそらく誰しもが内に隠し持っていると思われる文化や自然や社会への好奇心や興味の種が芽生え育つための誘い水の役割を果たしているのだと思います。加えて国際塾の授業では講師が一方的にしゃべるのではなく、出来るだけ塾生との対話やワークシヨップを取り入れて塾生たちがその場で考え、自分の言葉で発表する力を養ういわゆるアクティブラーニングの手法採用を試みていることも塾生たちの成長に奏功しているとも考えています。

来子どもたちは田園や里山など人間が自然の中に息づき、心と頭と体のバランスが取れる共同体の中でこそ文化や自然や社会に適応しながら内在する好奇心が点火され、知性と感性が均しく発達して自主的な学習意欲を高めていくもの。我が国の江戸時代の寺子屋から明治維新以降の近代化を促した相対的に高い教育水準を支えたのも似通った条件であり、明治以降戦前の学校教育にもそれは生かされてきたように思われます。最近伝えられる脳科学の成果に於いてもそのことが立証されています。

しかし戦後の経済発展とりわけ高度成長時代以降、人口の都市集中と核家族や父親不在による家庭喪失、人が触れ合う共同体や地域社会の崩壊、さらには画一的な管理教育、学歴主義や受験偏重の教育環境が子どもたちの本来持っている学習の意欲や機会を奪い、生きる喜びや将来の夢さえ失われかねない状況を招いています。二十一世紀の世界とわが国を取り囲む新たな経済社会環境の中でわが国の次代を背負う子どもたちの教育に課せられた最重要課題と申してもいいでしょう。かつて駐日米大使であった故ライシャワー博士が四十年前近くも前に著書「日本の国際化」で述べた「教科書を丸暗記すれば合格する受験制度によって、日本の高校までの教育は知的消化不良を、大学は知的栄養不良を起こしている。そのため知的訓練の場であるべき大学が、四年間の長い知的冬眠の場になってしまっている。それが現代の日本文化の

大きな弱点にもなっている。」との指摘は厳しくも慧眼だったと思います。

折しも東大をはじめわが国の代表的な大学がグローバル人材育成に向けて世界標準の大学を目指すべく受験方法も面接や論文中心に変えるなど、大改革に取り組み始めました。学習塾で学んだ丸暗記の受験技術ではなく、ボランティア活動など豊かな社会性や高校時代にこそしっかり学ぶべき幅広い一般教養を身に付け、それらに根差した社会貢献や研究課題、将来のキャリア展望を語り実践できる人材をこの大学も欲しがっています。インターキッツ国際塾はもちろん大学受験のための塾ではありません。が、これからわが国の代表的な大学が求めているようなグローバル社会での活躍を志す世界の大学生たちなら当然学んでいるであろう自国の文化、歴史などアイデンティティと誇り、一般教養、国際感覚、社会性、自立性、発信力などを学ぶきっかけをつかむ場になることは間違いありません。それによって一人でも多くの塾生諸君が将来のグローバル社会を目指すよすがとなることを願っています。

今年度は私たちインターキッツ初めての試みとして塾生を含む県下の公立高校生を対象に「グローバル社会に生きる」「ESD持続可能な社会を目指して」などをテーマとする懸賞論文募集事業を行いました。二十一名の応募者はいずれも甲乙をつけがたい優秀な内容でした。自らの体験や身の回りの出来事から世界や異文化に思いをはせて国際貢献や文化交流、また環境

や平和のために自ら何ができるか、何をしたいかが高校生らしく清新に、そしてそれぞれが独創的な視点で描かれています。伊藤史恵岡山県教育次長を審査委員長とする最終審査で選ばれた上位3名の高校生には副賞として夏休みの研修旅行に派遣する準備を進めています。滞在中洛陽市の高校生との交流や一般家庭でのホームステイを予定していますが、現在の日中間の厳しい政治外交関係のはざまであればこそこれらの高校生たちが両国の生徒同士あるいは家族との交流や友情が国際理解や平和にとってどんなに貴重なものであるかを感じ取ってくれることを期待しています。



協議会事務局からのお知らせ

● 事前調査団が大連を訪問 ●

6月8日から、門野八州雄前会長、岡本啓会長ら4名が大連を訪問し、本年度の青少年交流の事前調査をした。九日朝には交流校である大連第一中学を訪問し、石傑校長と朱徳本教務主任等と本年度高校生交流の計画について協議した。門野前会長は、今回の総会で岡本会長にバトンタッチしたことを報告、これまでと同様石校長の支持と協力を要請した。これに対し、石校長は、これまで門野先生が高校生交流の実現のために果たした大きな貢献を讃えるとともに、引き続き協力していただくよう要望した。本年度計画については石校長は大連一中として、学校での交流やホームステイについて原案通り受け入れることを約束した。また朱主任より、懸案となっていた大連高校生の岡山への訪問派遣について、昨年、一昨年と二年続いて実現できなかったが、本年度については現在上部機関に申請している最中であり、確認が取れ次第日本側に連絡する旨、報告があった。

一行は、今後の交流訪問先の候補として、遼寧省の省都である瀋陽を訪問視察した。瀋陽では、清朝の皇帝となった満州族の故宮を見学した。そして、満州事変（柳条湖事件）などを展示している九一八記念館を参観。その後、二代目の皇帝ヌルハチのお墓（北陵）を見学した。

なお、訪問団には岡山県立総社高校の前校長である新井悟先生と事務局長の松井が同行した。

● 岡山県日中教育交流協議会総会開催される！ ●

6月日、岡山県生涯学習センターにおいて、本年度総会・理事会が開かれた。会には役員ら20名が参加し、所定の議事を熱心に討議した。冒頭、門野八州雄会長が挨拶し、昨年度の活動を振り返り、日中関係が厳しい中、青少年交流活動を継続していく重要性を強調した。また、この総会で会長を辞任し、次期会長として岡山県生涯学習センター所長の岡本啓氏を推薦した。

総会では、今年度の日中青少年交流、『STUDENT EXCHANGE in大連』実施をはじめ、岡山県日中懇話会などと共同で中国への友好訪問団を派遣することなどを決定した。そして、役員改正では、別記の役員が選出された。



岡山県日中教育交流協議会 平成26年度 役員

役 職	氏 名	所 属
参 与	中 島 博	岡山県経済団体連絡協議会 座長
	岡 崎 彬	岡山県商工会議所連合会 会長
	加 計 孝太郎	学校法人加計学園 理事長
	片 山 浩 子	NPO法人岡山市日中友好協会 会長
	末 光 茂	社会福祉法人旭川荘 理事長
顧 問	竹 井 千 庫	岡山県教育委員会 教育長
	福 武 總一郎	公益財団法人福武教育文化振興財団 理事長
名 誉 会 長	江 草 安 彦	川崎医療福祉大学 名誉学長
特 別 顧 問	森 崎 岩之助	元岡山県日中教育交流協議会 会長
	黒 瀬 定 生	岡山県日中懇話会 会長
	岡 田 浩 明	元岡山県日中教育交流協議会 会長
	門 野 八洲雄	公益財団法人日本教育公務員弘済会岡山支部 支部長
会 長	岡 本 啓	岡山県生涯学習センター 所長
副 会 長	井 上 正 義	岡山県都市教育長協議会 会長
	森 靖 喜	岡山県私学協会 会長
	曾 田 佳代子	岡山大学教師教育開発センター 特任教授
理 事	中 村 明 雄	岡山県教育庁義務教育課 課長
	近 藤 治	岡山県教育庁高校教育課 課長
	屋 敷 欣 一	岡山県町村教育長会 代表
	土 屋 隆 士	岡山県PTA連合会 会長
	小 川 浩 基	岡山県高等学校PTA連合会 会長
	杉 本 尚 平	岡山県高等学校長協会 会長
	黒 山 靖 弘	岡山県特別支援学校長会 会長
	吉 田 俊 之	岡山県中学校長会 会長
	河 内 智 美	岡山県小学校長会 会長
	藤 澤 薫	岡山県高等学校文化連盟 会長
	鳥 居 恭 治	岡山県国際理解教育研究会 会長
	大 川 泰 栄	岡山市立上道中学校 校長
(事務局長)	松 井 三 平	岡山市日中友好協会 理事
監 事	大 橋 典 晶	中国短期大学 准教授
	赤 松 康 弘	公益財団法人日本教育公務員弘済会岡山支部 参事

「夢」を実現できる43年の伝統校

旭川荘厚生専門学院

＜旭川キャンパス＞

児童福祉科
(保育コース・幼保コース)

第1看護科

〒703-8560 岡山市北区祇園866
電話 (086) 275-0145・FAX (086) 275-3283

＜吉井川キャンパス＞

介護福祉科

精神保健福祉科

〒704-8126 岡山市東区西大寺浜610
電話 (086) 944-6911・FAX (086) 944-6922

<http://asahigawasou.ac.jp/gakuin/>



岡山商科大学孔子学院

中国語講座

2014年度前期 計18回
(2014年4月3日～8月26日)

特訓コース

新HSK試験5級をめざす
月・水・金曜日 計90回

太極拳コース

毎週木曜日(14:00～15:00)
計15回

子供向けコース

毎週土曜日(11:00～12:00)
全15回

出張中国語講座

簡単な日常会話から本格ビジネス中国語まで
対応します。内容は相談に応じて調整いたします。

出張中国文化講座 (開講料無料)

岡山県内の小学校、中学校、高校及び公民館を
対象とした出前中国文化講座を開講いたします。

お問い合わせ／お申し込み 岡山商科大学孔子学院 〒700-8601 岡山市北区津島京町2丁目10-1
TEL 086-252-0642 (内線521) FAX 086-255-6947 <http://www.osu.ac.jp/koushi/>



学校法人 中国学園

中国学園大学

●現代生活学部人間栄養学科 ●子ども学部子ども学科 ●大学院(現代生活学研究科
子ども学研究科)

中国短期大学

●総合生活学科 ●保育学科 ●英語コミュニケーション学科
●情報ビジネス学科 ●専攻科(介護福祉専攻)

〒701-0197 岡山市北区庭瀬83番地 TEL086-293-1100 FAX086-293-3993
<http://www.cjc.ac.jp/> E-mail t-bosyu@cjc.ac.jp

学校法人 加計学園

岡山理科大学附属中学校(中高一貫コース)

ひとりひとりの能力を最大限に引き出し、伸ばすとともに、自ら学び自ら考える人間を育てる。

- スーパー選抜クラス：難関国立大学、医学部等の難関大学への進学を目指します。
- 選抜クラス：国立大学・私立大学への進学を目指します。

〒700-0005 岡山市北区理大町1-1
岡山理科大学附属中学・高等学校 中高入試広報課
TEL (086) 256-8527 FAX (086) 256-8526

未来をつむぐチカラ。



「尾崎商事株式会社」は、「菅公学生服株式会社」へ
社名変更いたしました。



菅公学生服株式会社 岡山営業所

〒701-0202 岡山県岡山市南区山田2316-28
TEL 086(292)8255 FAX 086(292)8266



(公財)全国高等学校体育連盟
インターハイ協賛



(公財)全国高等学校文化連盟
AHS Japan High School Cultural Federation



(公財)日本中学校体育連盟
(公財)日本中学校体育連盟シンボルマーク付

カンコー学生服 検索 <http://kanko-gakuseifuku.co.jp/>

菅公学生服株式会社 お客様相談室 フリーコール 0120-712983 9:00~17:30/土・日・祝日除く。
※携帯電話、PHSからもご利用いただけます。



カンコー学生服は、子どもの健康と学業成就を願って学問の神様である
菅原道真公(菅公=カンコー)にちなんで名付けられました。

160th
ANNIVERSARY



「よく生きる」 を考える。

株式会社ベネッセホールディングス <http://www.benesse-hd.co.jp/>

岡山本社 〒700-0807 岡山県岡山市北区南方3-7-17 東京本部 〒163-0416 新宿区西新宿2-1-1 新宿三井ビルディング16F



Yayoi Kusama "Pumpkin" Photo: Shigeo Anzai

眼鏡医療技術専門学校 ワールドオプティカルカレッジ

今年も全員就職が内定しました！

天職が見つかる「学校説明会」



7月19日(土)
7月25日(金)
8月9日(土)
8月28日(木)
13:30~16:30

ご予約は 0120(88)8233へ

高校生も社会人の方も、是非私たちの学校を見に来て下さい

資料は無料配布 随時見学できます 本校独自の特待生制度 奨学金制度があります 高校卒業生コース(3年制) 短大卒業生コース(2年制)

〒703-8282岡山市中区平井6-6-11 <http://www.woc.ac.jp> E-mail woc@woc.ac.jp

中国語を話そう！

入門、初級、中級、上級、レベルに合わせて学びます。
見学歓迎！ご一報ください。

<費用> 入学金…3,150円(消費税込)

☆継続者は免除☆

受講料…31,500円(消費税込)/全24回

教材費…実費(2,000円~3,000円程度)

<申込方法> 申込書と、受講費用を事務局へご持参またはご送付下さい。
費用は前納にて一括納入を原則とします。

《問合せ先》

岡山中国語センター(岡山市日中友好協会内)

〒700-0902 岡山市北区錦町5-15 南田辺ビル2階 TEL (086)225-5068

E-mail oknittyu@yahoo.co.jp <http://www.oka-rizhongyouxie.jp/>

グループレッスン、個人レッスンの
ご相談にも応じます。
どうぞお気軽に
お問い合わせください。



おかげさまで25周年！

アジア・コミュニケーションズはあなたのツアーデスク！

- 中国東方航空で上海へ！上海経由で中国・世界各地へ！
- エバー航空で台北へ！
- 大韓航空で韓国ソウルへ！仁川空港経由で中国各地へ！
- お得なパッケージツアー(上海・台北・大連・青島など)
- 特徴あるこだわりのツアー
中国、ミャンマー、ラオス、ベトナムなど
皆様のご要望に沿った旅行企画をいたします。
安心の添乗員同行ツアーです
- 日中教育交流のサポート
企画から旅行実施、添乗までサポートします。

○お気軽にお問合せ下さい



株式会社アジア・コミュニケーションズ

ASIA COM 観光庁長官登録旅行業第1816号 ©JATA正会員 IATA公認

岡山市北区錦町5-15 南田辺ビル4F(〒700-0902)

TEL (086) 231-0334 FAX (086) 222-7732

<http://www.asicom.co.jp> Eメール info@asicom.co.jp



岡山県日中教育交流協議会

岡山県日中教育交流協議会 会報 『悠久』 第44号

発行：平成26年7月

発行者：岡山県日中教育交流協議会 編集委員会

〒700-0902 岡山市北区錦町5-15 南田辺ビル2階

TEL (086) 225-5083 FAX (086) 225-5041

印刷所：旭総合印刷株式会社